

いなむら市長の「い～なこの街尼崎」2月

テーマ：尼崎と秀吉・官兵衛

「秀吉とみそすり坊主」

戦争ばかりしておった昔の話。“本能寺の変”で、豊臣秀吉が仕えていた殿さまが殺された。そのことを姫路で聞いた秀吉は、かたきを討つため、急ぎ京へ兵を戻した。

武庫川をこっそり渡ったまでは良かったんやが、渡ったとたん、待ち伏せをしとった敵は、槍の雨降らしてきよった。そこで秀吉は、馬に乗ってただ一人、馬にムチをあて、敵陣の頭の上をひととびにして、廣徳寺（こうとくじ）へとかけていった。

それを見た、敵のさむらい大将、但馬守（たじまのかみ）は大声で家来に「皆の者、あわてるでない。秀吉の行方は一本道。わし一人で捕まえてみせる。」そういうて、悠々と馬で追いかけてきた。

秀吉は、それをみて「あんな豪傑を相手にしたら勝ち目が無い。」と、乗っていた馬を追い返し、廣徳寺の門の前に立った。門はしっかりと閉ざされておったが、横っちょの破れべいを見つけ、そこから寺の中へと入った。

寺の中をうろうろとしたが、隠れる所が無い。ふと、隣の寺の風呂場が見えた。ひょいと窓を覗くと、坊さんがはいっとる。「しめた。」喜んだ秀吉は、着ていた鎧兜をそばの古井戸に投げ入れ、「ごめん」とばかりに、風呂場に飛び込んだ。

そして、急いで、そこにあった剃刀で頭の毛をくりくり剃り、坊主に早がわり。外に脱ぎ捨ててあった白い坊さんの衣きて、なにくわん顔して廣徳寺の台所へ、入っていった。

台所では、修行中の坊さんが、大きなすり鉢で味噌をすっておった。秀吉は、他所からきた坊さまのふりをして、ずかずか、そのそばに寄って、「私も、お手伝いをいたしましょう。」と、どっかり座り込み、味噌をすり始めた。

そこへ、やっとこさ、やってきた但馬守（たじまのかみ）、「ややっ、秀吉め、いずこに隠れおったか。」きつねにつままれたような顔で、台所をうろうろと探し始めた。戸棚の中、かまどの中まで覗き込んだ。みそすり坊主になりすました秀吉は、そうした但馬守（たじまのかみ）の姿を、横目で、ちらりちらりと眺めながら、味噌をすっておった。

「残念、取り逃がしたか」悔しげに、そうつぶやいて出て行く但馬守（たじまのかみ）に、思わず秀吉は、下を向いてニヤリとわろうたそう。こうして、追ってから、逃げおおせた秀吉は、味方が持ち込んだ、鎧兜に身を固め、また、いくさに出かけたという。

秀吉が、みそすりをしたというすり鉢やすりこ木は、今も廣徳寺の床の間にでんとすわり、昔を語りかけておる。

月に1度、お届けしているこのコーナー。

いつもと赴きを変えて、尼崎に残る民話「秀吉とみそすり坊主」から始めさせていただきました。この民話に出てくる廣徳寺さんというのは、この番組でもよくご紹介している寺町にあるお寺の1つです。尼崎のお寺にもこんな面白いエピソードが残っているんですね。さて今回は、「尼崎と秀吉・官兵衛」と題しまして、NHKの大河ドラマに取り上げられている黒田官兵衛や豊臣秀吉と尼崎の縁についてお話していきたいと思っております。

今年のNHKの大河ドラマ「軍師 官兵衛」が放送中ですが、皆さんどうでしょうか。ご覧になってますか。私も毎週、たまには録画をしながら楽しみに見ているんですけども、少しご紹介したいと思います。

まず、主人公を演じるのは岡田准一さん、岡田さんの演じる主人公の黒田官兵衛は、天文15年、播磨の国の姫路城の城主の嫡男として生まれます。22歳の若さにして、結婚し、同時に家督を継いで、小寺家・家老の座に着きます。

織田信長の将来性をいち早く見抜き、今ちょうどこのあたりをテレビでやってるんですけどね。羽柴秀吉、後の豊臣秀吉には弟同然と呼ばれるほどに信頼されたそうです。

主君・小寺政職（こてら まさもと）や摂津を任されていた荒木村重（あらかき むらしげ）が織田家を裏切った際、説得しようとして罾に落ちてしまい、有岡城これは旧伊丹城ですね。ここに1年以上も幽閉されました。

織田軍の攻めにより有岡城が落城した際に救出され、それまで仕えていた小寺家と縁を切って、秀吉の軍師となります。

タイトルもまさに「軍師 官兵衛」ということで、頭が良いと言うか、機転が利くと言うか、そういったところがテレビドラマでも沢山でてくるんですけども、実はこの官兵衛、尼崎にもぜんぜん縁が無いわけじゃないんです。

官兵衛が有岡城、今の伊丹なんですけれども、この有岡城に幽閉されていた頃、尼崎市内各地に織田軍の兵が駐屯していました。尼崎市内にはその戦乱の跡が実は残っているんです。

猪名寺にある猪名寺廃寺跡、ここはその名のとおり昔お寺があったんです。白鳳時代これは645年の大化の改新から710年の平城京遷都までを指す時代なんですけれども、この白鳳時代に建てられたお寺があったんですけども、織田軍が有岡城を攻める際に、その戦乱によって焼失をし、廃寺になったと推定をされています。

また、次にご紹介したいのは、市役所とJR立花駅の間にある七松八幡神社です。この七松八幡神社は、TVアニメ「忍たま乱太郎」の登場キャラクターの1人である「七松小平太」を描いた特製の絵馬があることでも有名なんですけれども、実は官兵衛を幽閉した荒木村重の家臣など600人以上を弔う慰霊碑があるんです。

私も実はご近所なので、行った事があるんですけども、荒木村重、こうやって官兵衛を幽閉し、そしてこの村重だけは実は助かっていて、家臣だけが尼崎で実は殺されてしまうんですよね。で、それを弔う慰霊碑なんですけれども、荒木村重ってだから、どうなのって言われていたのが、最近実は官兵衛とも友情を育てていて、だからこそ幽閉はしたけれども官兵衛を殺さなかったんじゃないか、伊丹市さんでもそういった新しい歴史の側面と言いますかね、解釈をされたりして、姫路と伊丹市で仲直りの儀式をされたりってというのが新聞にも載ってましたけれども、やっぱり歴史っていうのは色々な側面から見ると、ぐっと面白さが増すのかなと思います。

そして他にも官兵衛が尼崎の地を訪れたと思われるエピソードが残ってます。その1つが先ほど朗読をさせていただきました「秀吉とみそすり坊主」です。

当時、秀吉と官兵衛は、織田信長の命を受け、敵である毛利の配下であった高松城、今の岡山県を攻めていました。

そんななか、天下統一目前と見られた織田信長が明智光秀に討たれてしまいます。もう皆さんよくご

存知の本能寺の変です。

主君を失い呆然とする秀吉に、官兵衛は謀反人である明智光秀を討つべしと進言します。秀吉は、信長の死を隠して速やかに毛利と和睦を成立させ、主君の仇である明智光秀を討つため京に向けて、全軍を取って返して約1週間にわたる大移動を行いました。これが歴史上名高い「中国大返し」と呼ばれる強行軍です。「秀吉とみそすり坊主」は、この強行軍の途中に、交通の要衝であった尼崎にたどり着いた際のエピソードとされています。

他にも、秀吉軍が尼崎まで来た際のエピソードとして、「雉が坂(きじがさか)」があります。

これは秀吉を、明智光秀が武庫川の堤の坂(つつみのさか)に伏兵をおいて討とうとしたとき、秀吉が武庫川に着いた際、雉が一度にぱっと飛び立つのが見えたことで、伏兵の存在に気づき、事なきを得たというエピソードです。さっきの朗読の中にもね、武庫川っていうのが出てきていましたが、やっぱりこの辺もそうやって戦いの舞台になっていたってことなんですよ。

こうしたエピソードは民話だけじゃありません。司馬遼太郎が書いた「播磨灘物語」では、尼崎で信長の弔い合戦に向けた軍議が開かれ、官兵衛が戦場となる予定の地や明智軍について思いをめぐらす様子が描かれていますので、是非、大河ドラマ「軍師 官兵衛」でも尼崎が少しでも出てきたらうれしいなと思います。いずれにしても私たちに身近なこの兵庫の地が沢山でてきますので、皆さん是非「軍師 官兵衛」も見てみてください。

それでは今回は、「尼崎と秀吉・官兵衛」と題して、黒田官兵衛や豊臣秀吉についてお話させていただきました。次回の放送もどうぞお楽しみに・・・。